

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770302321		
法人名	有限会社 花束		
事業所名	グループホームひまわり A棟		
所在地	郡山市安積4丁目334-1		
自己評価作成日	H28. 11月20日	評価結果市町村受理日	平成29年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成29年1月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様・職員の笑顔が絶えない明るい雰囲気作りをしています。理念に基づき、個々の能力を活かしながら喜怒哀楽を大切に生活を送って頂けるように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 利用者とのコミュニケーションを大切に、一人ひとりの意向や希望を把握し、職員間で話し合いながら利用者の持っている能力を活かし、日常生活での役割づくりを行っている。掃除・レクリエーションでの役割分担、献立を考え食材の買い出しをし調理に主体的に参加する等、利用者が生きがいを持って生活出来るよう支援している。
 2. 利用者が、地域の一員として暮らし続けられるよう地域との関わりを大切に、公民館で行われるカラオケや卓球等の地域行事へ参加し、各種ボランティアの受け入れや行事等を通し、日常的に地域住民との交流が持てるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員の思いや意識を盛り込み分かりやすい言葉で作成した。申し送りの際に再確認し、実践につなげている。	全職員で作成した理念を玄関等に掲示し、毎朝の申し送り時に唱和を行い職員間で共有されている。優しさと思いやりのあるケアを提供し、地域と交流しながら、理念を実践につなげている。また、理念の見直し検討も行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域清掃や敬老会等に参加しており、夏祭りでは地域の方の来訪もある。新たな地域活動の場への参加もできるようになった。	町内会に加入し、地域清掃・敬老会、公民館で行われるカラオケ・卓球等の地域行事に利用者と一緒に参加している。また、事業所の夏祭り等の行事の際には、チラシを一軒一軒配り、案内をしており、地域から多くの方が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は地域貢献までは至らず、今後関係機関や職員と話し合いながら取り組んでいきたい。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	定期的開催し、近況・課題について協議し意見をもらっている。利用者の方にも参加していただき思いを話していただいている。職員会議を通し全職員への報告している。	運営推進会議は定期的開催されている。事業所から状況報告(利用者状況・外部評価内容・避難訓練状況等)をし、委員から意見や提案が出され、サービス向上に活かしている。委員である利用者や家族からの意見等も多く、意見をだしやすいオープンな会議が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者と連携を図り地域情報を教えていただいたり、課題に向けた相談をしている。	市の担当者とは、事業所の課題について相談をし、意見や情報を貰っている。特に、生活保護の担当者とは毎月、状況を報告し、相談を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束について理解をし拘束のないケアを実践している。家族様から要望があった場合は、拘束についての説明と話し合いをもち納得していただけるようにしたい。	身体拘束廃止マニュアルを策定しており、研修や勉強会は、年間研修計画に沿って行い、職員全員で身体拘束をしないケアを実践している。また、日常支援の中で気になる対応があれば職員がお互いに注意し合える環境を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての理解と遵守をスタッフ会議で話し合ったり勉強会の中で確認し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会を通して制度の理解や知識を高められるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約・料金改定の際は十分な説明のもと、不明な点を随時確認しながら進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	些細な事でも親身になり話しやすい環境作りに努めている。日頃の会話等から思いをくみとりサービスに反映できるよう努めている。クレーム等があった場合は職員間で情報を共有している。	利用者からの意見は、日常生活の中から汲み取り、運営推進会議でも情報を得ている。家族からは、来訪の折、意見や要望を聞き職員間で検討をし、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議等で意見、要望を聞き反映させている。また、日常の中でも言いやすい関係作りに努めている。	スタッフ会議や日常の業務の中で管理者は職員の意見を聞き取っている。また、親睦会等を開催し、話しやすい環境も作っている。出された職員の意見は、検討し、運営に反映させている。また、職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は職場内で活かせる労働環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援や研修会の参加。勉強会にてスキルアップに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に応じて研修会に参加し、スタッフ会議で報告。内容を共有化し実践に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等で意見交換により新たな視点を見つけ反映させる事でサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して頂けるよう不安や要望などには耳を傾け気持ちを受け止め信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている時は迅速に対応し、毎月手紙で利用者様の現状を伝えるなど関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の実情や要望をもとに、その時点で何が必要かを見極め迅速な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において、本人の出来る事を見つけ行う事で同じ目線に立ち利用者様との信頼関係を築けるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も参加できるような行事を考え利用者と一緒に楽しんでもらえるような機会を作っている。また、面会時や本人の訴えによる電話で現状を伝えご家族様の思いを受け止めらるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その方の過ごしてきた時代・ふるさとや大切なものを知る事でより多くのコミュニケーションが取れ関係が途切れないよう努めている。ご友人の面会がある方もいる。	家族と一緒に、墓参り・外泊・外食等に出かけたり、旧友と食事会に行く等、馴染みの関係を継続出来るよう支援している。また、家族・友人・知人等の来訪の際は、お茶を出し、ゆったりと過ごせるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や利用者同士の関係を把握し支え合えるような支援ができるように工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても困った時はいつでも相談して頂けるように話をしている。また、移住先の関係者に情報の提供をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々に合った支援を行えるように情報収集を行い職員で話し合い把握できるように努めている。	日々の生活の中から利用者の暮らしへの希望や意向を把握し支援している。また、意思表示が困難な場合は、家族や知人から情報を得て出来る限り、利用者の思いに沿った生活が送れるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や関係者から生活歴や生活状況を聞き職員間で情報を共有しこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの現状や変化を職員全員が把握するためにケース記録や業務日誌、連絡帳を用いて情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすために本人や家族からの意見や要望を聞きサービス担当者会議での意見等も反映させながら作成している。	利用者の介護記録を確認し職員間で意見を出し合い評価しながら、利用者・家族の意向や利用者の心身状況の変化を踏まえて、現状に即した介護計画の作成に当たっている。通常、計画の見直しは、3ヶ月に1度行っているが利用者の心身の変化によっては、その都度、見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を業務前に確認し、職員間で話し合い介護計画の見直しや実践に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調の変化やその時々生まれる状況に応じて職員間で話し合い見直し本人に		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや訪問理容、訪問販売等を活用している。また、地域清掃へ毎回参加し地域の方々との関わりをもてるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に本人や家族の希望する医療機関で受診できるよう支援している。また、往診体制もできている。	かかりつけ医への通院の際は家族の同行を基本としているが、困難な場合、職員が対応している。ほとんどの利用者が協力医療機関をかかりつけ医としており、往診の際は職員が対応している。受診結果は家族に報告し事業所と家族が共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、看護師が来園し健康チェックをしていただいている。また、体調の報告をし主治医への報告や指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や病院関係者と情報交換を行い状況を把握し対応できるよう努めている。退院時は医師や看護師等と再度情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師や家族と話し合い方針の共有化をしている。随時医師と連携し密に家族様への報告をしながら支援している。連絡表、看取り指針を用いて全スタッフの意思統一を図っている。	利用開始時に重度化・終末期について利用者・家族に説明をし、意向を確認している。利用者が重度化した場合には事業所の看取り指針を説明し、家族及び医師等の関係者で十分話し合い、家族の意向をもとにターミナルケアの実践に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には適切な対応がとれるようマニュアルを用いて勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月連絡網訓練と年2回の避難訓練を行い対応できるようにしている。避難の優先順位もわかりやすいよう目印をつけている。運営推進会議で協力を呼びかけている。	消防署立会いの訓練を年2回実施している。それ以外には、水害時の避難場所の確認、伝達訓練や夜間想定訓練等を毎月実施している。災害時の備蓄として水・食料品等を用意している。また、訓練の際、近隣に住む大家さんと運営推進会議の委員も参加している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の思いや人格を尊重し、訴え時には傾聴するなど気分を損ねない対応をしている。	誇りやプライバシーを損ねない話しかけや、トイレ誘導へのさりげない声かけや居室入室時のノック対応等を行っている。また、個人情報取り扱い等には十分な注意を払い、書類は鍵付きロッカーに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表せるように声かけや対応をしている。又、納得の出来る暮らしを可能な限り実現できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、その時の心身の状態を考慮しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	一人ひとりの好みや力を活かして手伝っていただいている。食べたい物を聞いて、献立に取り入れたり、外食へ出かけたりと支援している。	その日ある食材で献立を考える事は料理が得意な利用者の役割になっている。食事の準備・調理・片付けまで出来る利用者が中心となり行っており、職員も一緒に食卓を囲んで食事が楽しめるよう支援している。外食も企画し食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常に摂取量が把握できる様、表を使っている。ここに合わせた声かけや支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけを行い個々に合わせた方法で行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、配慮しつつ誘導、声掛けを行っている。トイレでの排泄が出来るよう声かけ支援を行っている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握しながら、表情や仕草からも排泄サインを確認し、羞恥心に配慮しながら、トイレでの排泄を基本に支援をしている。改善につながった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを提供したり、排便コントロールが出来るよう、主治医と連携しながら便秘薬を内服していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回～3回入浴できるよう声かけし希望に合わせて支援している。また、仲の良い利用者同士で入る事もある。	週に2～3回の入浴を目標に支援している。利用者の体調に合わせてシャワー浴等も行っている。嫌がる方への対応にも工夫し個々に添った対応(利用者同士での入浴・夜間入浴等)をしている。また、入浴剤や変わり湯(菖蒲湯・ゆず湯等)を取り入れ、入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの指示や薬剤情報を確認し共有化を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの力を活かした役割りをお願いし都度お礼の言葉をかけている。歌やDVD等を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的の買い物へ行き気分転換を図ったり、家族様に協力していただきながら外出等支援している。季節に合わせた外出支援を行っている。	日常的に散歩や買い物等に外出している。また、季節ごとに外出の機会を企画し実践している。花見・ドライブ・紅葉狩・初詣、外食等の外出支援は利用者の楽しみとなっている。また、家族の協力がかけられる人もいる。外出が困難な利用者はウッドデッキでの外気浴を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、支払いが行える方がいないため、職員が代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様より電話が来た場合、ゆっくり会話できる環境作りをしている。いつでも電話出来る様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた温度・湿度の調整。光の具合やテレビの音量にきをつけている。装飾・レク活動を通して季節を感じられるよう工夫している。	共用空間は、広く明るく、温・湿度管理がされており快適な生活空間となっている。壁や天井には利用者と一緒に作った季節感のある作品が飾られ和みのある空間になっている。事業所は平屋で共用空間は掃出し窓となっており、ウッドデッキを経て避難出来るため、災害時には有効である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やリビング等、自由に過ごしていただいている。暖かい日はテラスにて日光浴をし過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	好みの物や使い慣れた物、写真など持ち込み、壁に飾る事により居心地良く安心して過ごせるよう支援している。	自宅で飼っていたインコ、利用者の使い慣れた親しんだ家具・テレビ・アルバム・料理の本・塗り絵セット等を持ち込み、部屋の飾り付けや家具・ベッド等の配置等、利用者と家族の意向に添った部屋づくりをし、安心して居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・居室には、分かりやすいように目印をつけ、場所が把握できるようにしている。		